

IBM DataPower Gateway for Developers 用 の変換ツール



バージョン 7.5.2

クイック・スタート・ガイド

この資料は、**IBM DataPower Gateway for Developers** を **IBM DataPower Gateway 仮想エディション**に変換するツールを、初めて使用するときに役立ちます。

概説

IBM® DataPower® Gateway for Developers には、IBM ソフトウェア・サブスクリプション & サポートは含まれません。IBM ソフトウェア・サブスクリプション & サポートを取得するには、IBM DataPower Gateway for Developers を IBM DataPower Gateway 仮想エディションに変換します。変換ツールを使用すると、サポート対象外の DataPower Gateway 製品をサポート対象の製品に変換できます。

変換ツールを使用する前に、DataPower Gateway for Developers が機能していることを確認してください。DataPower Gateway for Developers は、Docker Hub から Docker イメージとして入手できます。または、IBM Fix Central にあるアーカイブ・ファイルからイメージをビルドすることができます。

1 ステップ 1: 変換ツール・イメージへのアクセス



変換ツール・イメージを IBM パスポート・アドバンテージからダウンロードします。以下のコンポーネントが含まれています。

- 製品を変換するツール。
- リソース・キット。
- この PDF 文書。

IBM では、パスポート・アドバンテージ (PPA) を介して、DataPower Gateway for Developers (developers-limited) を production、nonproduction、または developers 製品に変換する以下のツールを提供しています。

- xxx.dev.license.tar.gz は、developers-limited を developers に変換します。
- xxx.nonprod.license.tar.gz は、developers-limited を nonproduction に変換します。
- xxx.prod.license.tar.gz は、developers-limited を production に変換します。

2 ステップ 2: 製品の変換



DataPower Gateway for Developers を DataPower Gateway 仮想エディションに変換します。

1. Dockerfile を編集のために開きます。
2. 次の宣言を Dockerfile に追加します。

```
ADD idgversion.product.convert.tar.gz /  
RUN /bin/set-edition-product
```

ここで、

- ADD idgversion.product.convert.tar.gz 宣言は、変換ツールを Docker イメージに追加します。
- RUN /bin/set-edition-product 宣言は、このツールを実行します。

product は、変換先の製品に応じて prod、nonprod、または dev となります。

3. docker build コマンドを使用して、イメージをビルドします。
4. docker run コマンドを使用することで、イメージを実行して、Docker コンテナで DataPower Gateway を始動します。

3 ステップ 3: 変換の検証



DataPower Gateway CLI から、**show virtual-platform** コマンドを実行します。

変換先の仮想エディション製品に応じて、製品プロパティとして production、nonproduction、または developers が示されます。

4 ステップ 4: モジュールの管理



実動エディションの場合は、IBM パスポート・アドバンテージでモジュールを購入できます。モジュールを購入すると、アクティベーション・ツールとインストール手順を含むパッケージを受け取ります。

非実動エディションと開発者エディションの場合は、無効化ツールを使用して、不要なフィーチャーを無効にすることができます。アクティブ化されたフィーチャーを無効にすると、IBM Fix Central のツールは必要ありません。無効にしたフィーチャーは、該当するモジュールを再びアクティブ化しない限り、再度有効にすることができません。

詳細情報



詳しくは、IBM Knowledge Center (<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9H2Y>) の IBM DataPower Gateways 資料を参照してください。